

せとまちトーク進捗管理シート

古瀬戸 連区

テーマ

小中一貫校の通学路の安全確保（イノシシが頻繁に出る）

課題・問題点の背景・理由

- ・イノシシ対策、通学路に頻繁に現れる、児童に対して非常に危険であるが見守る大人がいない
- ・秋口にはマムシや蜂も現れる
- ・学校の区域が広がった

解決手法

【行政】	【地域】	【その他】
<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシや危険生物の駆除を願いたい ・実態調査をして状況を把握してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの募集方法を考える ・地域の人たちから見守りの協力者を増やしてほしい ・午後の見守りが少ないので、先生方にも協力していただきたい 	

関係する常任委員会

厚生文教委員会

せとまちトーク後の経過、及び調査検討結果

令和3年度3月定例会にて議論された。

市の回答としては通学路の安全に関しては、保護者と学校側が協力して対応することが望まれる。PTAの会議などで意見を出し合っていくようにする。

また、コミュニティスクールの集まりなどで地域全体の課題として対応していく。

市としては古瀬戸地区でもイノシシ用の箱罠を仕掛けている。

昨年の有害鳥獣の捕獲件数は

瀬戸市全体で、イノシシ237頭

そのうち

古瀬戸地区 10頭(目撃19例)

そのほか捕獲、

アライグマ 3匹 ハクビシン1匹 はち5件

【補足】

にじの丘エリアの通学路については特にほら地区、拝戸地区に出てくるイノシシの危険がある。そのためこれらの地区には箱罠が仕掛けられている。しかしながら、罠で捕獲するためには餌を撒いて誘引しなければならず、民家や通学路から離れたところに仕掛けられている。

通学班は一部山間部を通ってくるため、蛇やはちの危険もある。十分に学校側と協議をして安全対策が必要である。また、コミュニティスクール制度を活用して地域の各種団体とも連携が必要だと考える。